

第3回 岳北地域高校の魅力づくり研究協議会 会議録概要

- 1 開催日時 令和3年2月26日(金) 午後2時～3時
- 2 場 所 飯山市役所4階 全員協議会室
- 3 出席者
- | | | |
|-----|--------------|--------|
| 会長 | 飯山市長 | 足立 正則 |
| 副会長 | 木島平村長 | 日 碁 正博 |
| 委員 | 飯山市教育長 | 長瀬 哲 |
| | 木島平村教育長 | 小林 弘 |
| | 野沢温泉村教育長 | 岩上 芳宗 |
| | 栄村教育長 | 石澤 清人 |
| | 下高井農林高校同窓会長 | 村松 剛志 |
| | 飯水中学校町会長 | 山田 晃 |
| | 中野・下高井中学校長会長 | 伊賀 雅志 |
| | 飯水PTA連合会長 | 吉越 伸吾 |
| | 中高PTA連合会長 | 竹内 芳次郎 |
| | 飯山高等学校PTA会長 | 坂東 武文 |
| | 下高井農林高校PTA会長 | 上 埜 暁子 |
| | 飯山高等学校長 | 滝澤 崇 |
| | 高校再編推進室 | 上原 一善 |
| 事務局 | 飯山市 教育部長 | 常田 新司 |
| | 子ども育成課長 | 岩崎 敏 |
| | 学校教育係長 | 大口 なおみ |
| | 学校教育係 | 佐藤 優季子 |
| | 木島平村 子育て支援課長 | 島崎 かおり |
| | 子育て支援係長 | 武田 幸一 |

4 会議の経過及び発言

1 開 会

飯山市子ども育成課長)

お疲れ様です。年度末の非常に忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。只今から第3回目になります岳北地域魅力づくり研究協議会を始めさせていただきます。本日ですが、副部会長の飯山商工会議所伊東会頭様、野沢温泉村の富井村長様、栄村の宮川村長様、飯山高校同窓会宮本会長様にご欠席となっております。

それでは次第に基づきまして足立部会長よりご挨拶申し上げます。

2 あいさつ

会長)

皆様大変お忙しい中、研究協議会にご出席いただきありがとうございます。今日で全体会3回目ということになる訳でございますが、それまでの間にそれぞれの部会、飯山高校部会4回、農林高校部会4回論議を深めていただきまして、今日そのまとめということでの3回目になる訳でございます。今までの各高校部会における研究協議の結果のご報告をいただきまして、それを基に(2)にあります、岳北地域における魅力ある高校教育に向けての要望書(案)ということで、今日まとめられればというふうに思いますが、素案ですので皆様方からご意見をいただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。以上です。

飯山市子ども育成課長)

それでは早速会議事項に入らせていただきます。会議事項の進行につきましては会長の進行でお願いします。

3 会議事項

(1) 各高校部会における研究協議の結果報告について

①飯山高校部会

事務局から説明

会長)

かなりコンパクトにまとまっていますが、4回会議を実施した訳ございまして、少し補足しますと、飯山高校は今説明がありましたように、3種類の学科があります。探究科が2クラス、各クラス40名で合計80名、普通科が40名2クラス、スポーツ科学科が1クラスということで全部で5クラス200人ということでございます。基本的には進学を目指すということで、年によって変動はありますが、国公立への入学者がおおよそ2割弱、就職される方が8%くらい、後の方については私立またはその他の専門学校等へ行ってらっしゃるということで、やはり今は探究的な学びというものが全国的にも求められてきているということがございます。それから探究科では国公立の合格者の方の割合が大きいということでありますので、この研究会の中でまず探究科を強化して引っ張り上げる。探究力の強化と合わせて、進路においても大学受験という現実的な面においても引っ張り上げるという強化をすべきではないかということが飯山高校部会での、まず1つの基本的な考え方です。それによって、全体の力を引っ張り上げるという方向を求めたいということでございます。まだPR不足と言いますか、探究科そのもののPR不足もあって、なかなか家庭や中学生の方についてもっと内容をPRする必要があるのではないかとというのがPR不足ということです。それから、カリキュラムについては今私の方で説明した通りでございます。従って探究力を付けるための専任教師の配置をお願いしたい。これは全国的には普通の学校の勉強だけでなく、探究力を付ける、自分の頭で考えることの教育にシフトしてきているので、全国の中ではこうした探究力の育成に非常に力を入れている公立校もあります。そうした中でぜひ、現状の教員配置だけではなくて、さらに強化をする体制を取ってほしいというのが飯山高校部会での要望でございます。それから学科編成につきましてはそこにありますが、普通科が2022年に再編成されるというふうに聞いている訳でございますが、その中でも特徴を明確にしていく必要があります。それからスポーツ科学科でございますが、今回インターハイで男女全国総合優勝ということで、スキーでは日本1位です。これについては非常に誇るべきことだと思います。従ってスポーツ科学科につきましてもしっかり伝統と現在の教育の内容をしっかり継続していただくとともに、さらにトレーニング施設等の充実の教科をしてほしいということでございます。その他、地域連携でございますけど高校のみに学力向上というものをお願いするということではなく、小中と連携した学力向上を図っていかねばならないだろうということでございまして、一貫した指導、支援体制をしっかり積み上げていって高校へ結び付けていこうということがこの中での論議です。飯山高校部会については今お話したような内容でのご意見という訳でございますが、何か他に補足とか質疑等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。続きまして農林高校部会をお願いします。

②農林高校部会

事務局から説明

会長)

農林高校からの只今の説明につきまして、質問やご意見ございますか。

クラウドファンディングというのは農林高校でやる事業のためのクラウドファンディングということですか。事務局というのは農林高校なのか、行政なのか。

木島平村子育て支援課長)

岳北地域の高校の魅力づくりということで全体のことです。事務局は行政です。

会長)

行政がクラウドファンディングで集めて、農林高校を対象にしたということですね。

何か皆さんの方で何かご質問等ありますか。よく整理していただいてありまして、行政地域として支援していくもの、また県教委へお願いしなければいけないものとある訳でございますが、実際はいろいろな資料が背景にあってそれをまとめてこういう形になったということでございますけど。

副会長)

今出ました、クラウドファンディングについてですが、農林高校部会の事務局の方が主体となってやる訳で、説明の中でも岳北地域とありますので、農林高校だけのクラウドファンディングだけでなく、飯山高校も含めて岳北地域の2校についてのクラウドファンディングで、集まったお金については等分という訳ではなく、潤沢な飯山高校さんもおられるので、そんな面での配分の仕方も考えていかなければならないです。農林高校の存続等いろいろな面で、校舎等も古いというそんな面も含めてここに書いてあるような内容でやっていくことができるか分からないですが、そんなことにチャレンジしていければいいなということです。

会長)

外に対するPRというのですかね、こういう活動をしているとので応援してくださいとPRになりますよね。農林高校だけじゃなく、飯山高校も含めた岳北地域の高校ということですね。

他にありますか。無いようでありましたら、それぞれ4回の部会の中でご意見いろいろ出していただいたのですが、この中で特に自分達でやるものと県教委へ要望していくものというふうに分かれると思いますが、まずは県の方へお願いをしていくもの、要望していくものについて(2)の方で今日はたたき台を作っていきたいと思いますので、事務局お願いします。

(2)「岳北地域における魅力ある高校教育に向けて」の要望書(案)について

事務局から説明

会長)

たたき台ということで事務局の方で作成しましたが、何かご意見ございますか。

全体会で要望するのだから部会の要望事項はいらないのではないかな。

教育部長)

そこは直します。

会長)

飯山高校は文章が短いんだけど、もう少し背景みたいなものも付け加えた方がいいかもしれないな。探究科をなぜ強化したいのかというようなことについて現況や説明を付け加えた方がいいと思う。全国的にも探究的な教育については今後重視されてくるといような背景とかね。文章は事務局にまかせるが、そういうためのものということがしっかり謳った方がいいと思う。

他にありますか。それではよろしいですかね。

それでは、もう一度、事務局の方で要望書の案を作りますが、県教委の方へ要望する時期的なこともありますので、(3)の今後の予定についてご検討いただきたいと思います。

(3) 今後の予定について

教育部長)

今要望書(案)をお示しさせていただきました。最後の頁に進め方を掲げてございます。今のご意見等を会長からもいただきましたので、修正したものをそれぞれの委員さんにご確認いただきますが、いずれにしても1市3村の議会へ報告し意見をいただかないと県教委へ要望書を提出することは難しいと思いますので、早急に修正し、委員さんへお送りし確定した段階で、各議会へ報告をお願いしたいと思います。その後は全体会を開くことが日程的に難しいと思いますので、最終的なものについては、議会から意見や修正等あれば修正し、修正がなければそのまま各委員さんへ最終的な確認を行っていただいて、できれば会長、副会長で県の方へ要望書を提出していきたいというふうに思います。時間的なものでなかなか難しいので次回の全体会を開くということはできませんので、そのような形で進めさせていただければと思いますのでよろしくお願いします。

会長)

これで案を作りまして、各市村の議会へ説明していただいて、そこで訂正があればそれをまた委員さんの方でご覧いただきましてご意見を賜るというふうにしていきたいと思う訳ですが、これから年度末になりますので、皆様方のスケジュールも忙しいと思いますので、第4回の全体会は開催できればしますけれども、難しいようであればそのような形でご承認をいただきたいと思います。そして、今年度中に県へ要望できればいいのですが、県の日程もあると思いますので、できるだけ年度内に要望ができますように、進めさせていただくということでもよろしいでしょうか。このようなタイトなスケジュールではありますが、今お示ししました内容に大きな変更はないと思っています。

飯山高等学校校長)

要望事項についてありがとうございます。議論の中で人間的な配置をお願いしていいということ、また探究科を引き上げるという会長の説明の中で書いていただいておりますが、①の文章ですが、この文章だと探究科という科があって、専属の探究科の教員がいるかのような理解をされてしまう恐れもありますので、探究活動や探究する力を身に付けていくのですが、担当しているのは、国語算数理科社会を始めとした各教科の教員が担当していますので、そこを各議会等へ出していく時には誤解を招かないような文言にいただければという要望がありますが、事務局と相談させていただければと思います。

飯山市教育長)

なかなかそういう教員がいらないということなんですか。

飯山高等学校校長)

どこにもいないと思います。

野沢温泉村教育長)

大学で探究科を指導する専門の先生、免許を持った先生はいないということですよね。

飯山高等学校校長)

そういう科はないです。学科であって教科ではないので。

会長)

探究学という教科は無いということですね。ただ、手法とするとこういう手法でやりなさいという専門的な方はいますよね。だが、手法だけ教えると言っても対象によって違ってくるかもしれない。確かに探究学というのは学科にはないのだけれど、そういう手法を教えるある程度の専門的な人達というのは探究教育を進めようという場合には必要になってきますよね。一般的に社会へ出た時に使われる手法と全く一緒ですが、論理的思考とは、論理的に実践していくという問題解決の手法というのは、実社会にいと現実的な課題になるが、基本的なスタイルというのはある程度決まっているので、その基礎的なものをきちっと教えるというようなことをやらないと何をやっているのかわらなくなってしまう。そういうものについては、今の教員資格では探究についての学科の資格を取った教員はいないと思うのですが、勉強のやり方とすると知っている方々はいらっしゃると思うし、または企業の人達も大学の研究室とかへ行くと詳しく知っていると思うので、外部講師でもいいのでそういうようなものについては基礎的なものを教えていく必要があると思う。その辺についてここに書いてあるということです。そういうことをご理解いただいた上でぜひその意味が県の教育委員会へ伝わるようにお願いをしたいということです。また、文章については相談してください。

木島平村教育長)

農林高校部会事務局を除いて19人の委員のみなさんが4回に亘って協議をしてきて、ここに要望事項ということでまとめて、第4回の時にはこれで最終的に県の方へということでみなさんに同意をいただいた訳であります。3月議会の全員協議会でも農林高校について説明をすることがありますが、ご存知のように去年の11月26日に農林高校を考える会という議員の会が設立されまして、議員のみなさんから要望をいくつか出された場合には、事務局だけで県への要望としてまとめ上げることは、みなさんと一緒にやってきたものがありますので懸念されると思います。

副会長)

この会も非常に大勢の関係者の方に入っていて、なおかつ部会を設けて話を進めてきた訳ですので、この会とするとこういう結論ですというようなことですかね。議会は議会で要望をするルートがありますので、これを全て盛り込んでいくと非常に大変なことになりますので、この会はこの会としていろいろな関係者の皆様方からの要望としてこういうふうにとまりましたという報告をしていただくということですね。

会長)

この組織としてこうまとまりましたという報告をしていただくということでよろしいですかね。それでお願いしたいと思います。

下高井農林高校 PTA 会長)

私は農林高校部会に出席させていただいたのですが、農林高校部会の要望事項のところの①ですが、「岳北地域の高校の将来像を考える協議会」から提出しました意見・提案書のなかでという文章ですが、「学びのあり方に関して」と「環境整備に関して」については、地域中学生の期待に応えられるようにという要望がかかれていますし、こちらについては部会の中でも具体的に伺っていない部分もありますし、ここはもう少し具体的に書いていただいた方が、学びのあり方に関して具体的にこの点、これに対してはこの点という形がいいと思います。

会長)

具体的な内容をここへ記述した方が良いということによろしいですか。

下高井農林高校 PTA 会長)

他の②③④⑤はかなり具体的な内容で書いてありますので、①については提案書を参照しないと内容が分からないというような形だとも思います。県の方へは提出されてはあるのでしょうけど、普通の方には分からないと思います。

会長)

表現の問題だと思いますが、県の方へ出したものは、具体的提案要望ということで大きくは2つあります。1つは専門高校としての新たなカリキュラムの実現ということで3年間で一貫した学びのための施設、機械の整備、農業実習のための人員的配置というのがあります。2つ目は専科、専攻科を新設するための施策として施設整備や人的配置をしてください。3つ目はIOT科の近代化です。これを具体的ににしたのが下の部分なので被っている感じかもしれませんが、これは県では分かるのですよね。県の方ではこういう要望をされたということは分かりますよね。

木島平村子育て支援課長)

①については、去年県教委の方へ提出したものが基本となっておりまして、毎年毎年要望していくというスタイルで考えています。

会長)

既に県教委の方へは出てますので、これを受け取った県教委はこれについては分かっているということで、たまたもし何かあれば前に要望したものを参考にご覧いただければと思います。これをまた書いてしまうと前の全く二重書きになってしまいますので、それをもう少し具体的にはこういうことをやってねというものにもう少しかみ砕いたものについての具体的な提案がまた更にされているというふうな形になっていると思います。よろしいですか。確かにこれだけ読むと何を要望したのかわからないですよね。ただ、県の方へはその前の要望書がいつていますから、県の方ではこういうことを要望されていると分かるのですよね。

木島平村教育長)

①の学びのあり方に関してというのは県の方へ出しました提案書、約1頁に亘っています。環境整備に関してということについては3分の1頁ということで、それは既に1年前に出してある訳で、そんなような訳で①のように簡略化してそれをしっかりやってほしいと、つてはもう少し具体的な形で本年度ずっと取り組んできたものを以下に要望として挙げたというプロセスであります。

下高井農林高校 PTA 会長)

ありがとうございます。これは岳北地域の将来像とありますが、これは農林高校についての部分ということですか。

木島平村教育長)

飯山高校、農林高校共に学びのあり方について入っております。

下高井農林高校 PTA 会長)

ということであれば、飯山高校の要望、農林高校の要望の上部に位置するのではないですか。

会長)

全体のことなので1番上に上げて、その下にそれぞれの高校の要望とするということにします。

良い意見を頂戴してありがとうございます。他によろしいですか。

飯水 PTA 連合会長)

農林高校部会の⑤ですが、高校の人数について触れていますが、魅力ある提言というのと違うのかなと思うのですが、残った方がいいですか。上の方では大分具体的な話をされて最後に人数に触れてしまうので、これは言う必要があるのかなと感じます。

木島平村教育長)

昨年度の協議会では、将来的には学級規模の縮小、再編等存続が困難になった場合は農林高校を飯山高校のキャンパス化するというようなことになっております。そういうことを含めまして、魅力あるということはもちろんですが、農林高校、同窓生も含めて地域もキャンパス化ではなく、今の現状の農林高校の存続を非常に願っている訳で、そこからすると数字というものについてやはり出していくことが大事だということで挙げてあります。

飯水 PTA 連合会長)

であれば、ストレートにあそこの場所であるからこういうことができているということとを具体的に申し上げた方が端的なのではないかと思えます。

会長)

規模の人員の制限があって、現在の基準を割ってしまうとキャンパス化になってしまうということで、そもそもその基準そのものの見直しを求めますという要望です。

飯水 PTA 連合会長)

分かりました。

副会長)

120人と160人の差がどういうものかという、3学年合計なので、1学年平均すると54人でそれを下回るとキャンパス化になってしまうということなんです。ただ、その54人というのはなんで54人なのか分からない。本当はその根拠をもう少し明確にと言ったのだけれども、160人ということだった。今度全国でも小中学校の定員を35人にするという流れで来ていますので、そうすれば高校の1学年のクラスの人数も将来的には35人にするとかそういうふうになればもっと基準が下がるのではないですか。そういう意味でキャンパス化の条件を緩くしてほしいということです。

野沢温泉村教育長)

私は中身についてはいいのですが、来年度へ継続という場合には毎年毎年要望書を出していくという話がありましたけれども、この会議はこの形でずっと続いていくのですか。2つの高校のあり方を考えるこの岳北地域の魅力づくり研究協議会というのは、毎年年に何回か続けていくということですか。

会長)

それについては今後どういうふうにすればいいのか、皆様方のご意見を伺わないといけないのですが、まず、ここまで1年間やってまとまったものについては県の方へ要望します。そして要望したものについてはどうなっていますかと問うのもこの会としてできると思う。それから、要望するだけでなく地域でどうやって応援しようかということの提案もいただいていますのでそれは引き続きこの組織の中で4市村とてどういう形で応援するかと深めないといけない。その部分は今日はできないので、それはまた引き続き新年度へ入ってやっていかないとはいけません。予算化の問題やどこまでできるかという問題もありますので、そうするとここへあがったものについては整理ができますので、そうしたことについてこの会としてどういう形でやりましょうかと、更に毎年継続して進めていくのか、それとも要望は要望活動とし、後は実際にできることを実施をしたのでとりあえずこの任務は終わるのかというその辺については、それぞ

れの委員さんのご意見をお伺いしながらやっていかなければいけないのかなと思っています。

飯山市教育長)

この委員会ができる原点を探るとずっと続けてやっていくということです。むしろこれからの方が大変だと思います。いろいろな問題が具体化してくるので、まとまって対応していかないと地域の要望が県へ挙がっていかないと思います。いずれにしてもこの組織がどういう形に変わる、変わらないにしてもこういう形は岳北地域としては継続していった方がいいと思います。

野沢温泉村教育長)

村長はいろいろな業務が合って今日も来ていらっしゃらないですが、ぜひ理事者のところでこの会議をいつどんなふうにやるのか詰めてもらいたいです。

会長)

これは元々、岳北地域高校の魅力づくり研究協議会ということで、岳北地域の中の高校、また高校教育を存続させていく必要があるということで4市村の行政や関係者で集まっていたいて、それでみんなで考えましょう、応援しましょうというスタンスだと思うのです。ですから、要望だけして終わりでいうことではなく、更にこの地域での高校教育がしっかり自立して良くなっていくような方向にみんなで連携し、継続してやっていくということが、私も必要ではないかと思っています。皆様方のご意見もあるかもしれませんが、それによってだんだん変わってくると思います。義務教育との連携や地域と高校の連携とかいろいろなものが生まれてくると思います。欲を言えば、長野県下の模範事例になればいいかなと思います。

副会長)

それについては私も同じ考えで、魅力づくり研究協議会については1つは県へ要望する、それをまとめていくことでもあります。それだけではなく地域として地域の高校のために何ができるかということは、高校がある限りずっと続く課題だと思いますので、ずっと継続してやっていかなければいけないと思います。特に下高井農林高校については地域との連携事業や今力を入れようとしている、デュアル教育やデュアルシステムかについては地域と切っても切れない活動があるので、周辺市町村の財政的な支援やこの会に参加しているみなさんの人的な支援等様々な支援が必要になってくるので、それを高校の再編の目途が付いた時に、目標が決まったからやめていいということではなく、魅力づくりについてはずっと継続していくべきだというふうに思っています。ぜひみなさんにもそういう方向で考えていただければと思います。

下高井農林高校校長)

いろいろご意見いただきましてありがとうございます。4回の農林高校部会、全体会でも本校の魅力について、特に見直していただきありがとうございます。本校に来ている生徒にとっては本校に何らかの魅力を感じてきていただいている訳ですから、そこで受け入れた生徒をしっかり育て上げることが地域に貢献できるような人を育成することを方針にしてやっております。村にはある訳ですけどこの地域全体の子ども達が来ている訳ですから、育っていく時に地域全体のお力を借りながら進めていかなければいけない時期に来ているというふうに思っております。先程、財政的な提案のお話も具体的に農林高校部会では出ております。ぜひ4市村のみなさまとこの地域の子ども達をどうやって育てるかというところでお力をお借りできればと一番有難いなと思っております。昨年の地域協議会からの流れを汲んできている訳ですが、子どもの数が急激に増えることは無いことを分かっておりますし、どうやれば本校に生徒が来てくれるかというところも校内で日々検討してきているところです。そんなところでまたこれから学校の魅力をつくっていく上でも、財政的な部分は特に農林高校部会で出していただいて有難い訳ですが、そんなところも検討していただけると有難いと思います。

会長)

今までの皆様方のご意見、1市3村初めてこういう形で集まってできた訳でございます。継続をして応援するというご意見だと思います。

これについてはよろしいですか。それではこれをまとめてできれば今年度中に県の教育委員会の方へ要望をしていければというふうに思います。どうしても日程が取れなければ4月以降になってしまうこともご理解いただければと思います。それから、今後の進め方の中で地域として応援していくべき内容についても検討していただいておりますので、また次回はそういうものを含めて、具体的にどうするのかということで詰めていければというふうに思いますが、そんなところでよろしいでしょうか。

他にみなさんの方から何かありますか。よろしいですか。それでは事務局の方へ返します。

4 その他

教育部長)

今説明をさせていただきました要望書の修正につきましては、早めに事務局で修正して各委員さんに送らせていただきますので、またご意見をいただければと思います。ただ、議会への報告等ありますので、日程的にはタイトになると思いますので、事務局としてもなるべく早目に委員さんの方へお送りしますので、ご意見等も早目にお返しいただくということをお願いします。

飯山市子ども育成課長)

それでは、大変長時間にわたりありがとうございました。今後の進め方の中でみなさまからご意見もございましたが、基本的にはこの会は継続していくということでご確認いただけたというふうに思います。ただ、来年度に向けて会議の持ち方ですとか部会の開催、その他につきましてはまた事務局の方で4市村のみなさんにご協議させていただいた上で新年度に入ってまたお知らせさせていただけたらと思っています。また、委員の皆様の内、役職で委任されていらっしゃる方、特にPTA会長さんにつきましては当初の会議でお示ししました通り任期が今年度末までとなっております、本日が最後の会議となるかと思っています。1年間ありがとうございました。来年度へ向けてもこの会が続くということでございますので、後任の方が決まりましたら、引継ぎをしていただけたらと思います。事務局としては以上ですが、全体で皆様の方から何かありますか。よろしいでしょうか。

5 閉会

飯山市子ども育成課長)

それでは以上をもちまして第3回の協議会を閉じさせていただきます。大変お疲れ様でした。